授業科目名	経済学入門（国・公）	担当教員名	長濱　幸一／佐藤　佑一				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	「経済学を学ぶ入り口」 　本講義は経済学部に入学した１年生を主な対象として、今後、本格的な経済学を学ぶために必要な基礎的な知識を提供する。経済学がどのような問題に関心を持ってきたか、現代の経済社会がどのように形成されてきたか、そしてミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な把握などが主な内容となる。 なお本講義は1～10回を長濱が、11～15回を佐藤が担当する。そのため、それぞれの担当者の初回の講義で説明を行うので、注意すること。
到達目標	①経済学に興味関心を持つことができる(意欲・姿勢) ②経済学がどのような問題に関心を持ってきたか理解できる(知識) ③現代の経済社会が形成されたプロセスを理解できる(知識) ④理論経済学の基礎となる考え方を身に着ける（知識） ⑤自分の考えや知識を的確に表現できる(技能)

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト		
	レポート		
	定期試験		
	その他		本講義は２名の教員が担当する。採点割合は長濱(60%)、佐藤(40%)とする。それぞれの担当教員の評価方法については、各担当者が最初の講義

事前・事後学習	事前に配布する講義資料を利用して予習しておくことが望ましい。授業後は講義資料を利用して自分なりに整理することで、経済学に関する基礎的知識を涵養できる。

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『長濱…特に指定しない』			
	『はじめて学ぶミクロ経済学・マクロ経済学』	池田 剛士、土橋 俊寛（編集）, 岡田	税務経理協会	2023年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『授業内で随時紹介する』			

備考	本講義の資料や講義の案内はGoogle classroomを通じて行う。なお２名の教員が担当するため、学期の途中でClassroomの切り替えなどが発生する可能性がある。またシラバスの授業内容が変更される場合もある。その場合は授業中に説明する。

授業の計画		
1	ガイダンスおよび経済学の基本的な思考法	経済学がどのような思考法を好むのか、それを学ぶことにどんな意味があるのかを考える。
2	経済学の問題関心①	経済学がどのような問題関心(分配・価値)を持ってきたかを、主要な経済学者の所説を整理しつつ考える。
3	経済学の問題関心②	経済学がどのような問題関心(生存・企業)を持ってきたかを、主要な経済学者の所説を整理しつつ考える。
4	戦後世界経済史①	戦後から1970年代までの先進国経済を中心に取り扱う。現在の経済社会を学んでいく基礎知識を獲得する。
5	戦後世界経済史②	戦後から1970年代までの途上国経済・社会主義諸国の歩みを考察する。
6	戦後世界経済史③	1980年代以降のグローバル化現象について考える。
7	戦後日本経済史①	戦後から高度成長期の日本経済について検討する。
8	戦後日本経済史②	1980年代以降の安定成長期の日本経済について検討する。
9	戦後日本経済史③	バブル崩壊後の日本経済について検討する。
10	中間試験	ここまでの内容について試験を実施する。
11	ミクロ経済入門①	経済学の考え方について学ぶ。経済の需要・供給について考える。
12	ミクロ経済入門②	比較優位・貿易について考える。
13	マクロ経済入門①	GDPについて考える。マクロ経済学の基礎は何か考える。
14	マクロ経済入門②	雇用など景気を反映した様々な指標について考える。
15	マクロ経済入門③	経済成長とは何かについて。歴史的な枠組みも考慮しつつ簡単に考える。

授業科目名	商学総論	担当教員名	柳　純				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	本講義は初年次における商学を理解するために設けられています。生産と消費の諸活動をつなぐ重要な役割を果たしているのが流通であり、その主体となるのが卸売業、小売業を中心とした商業になります。本講義では商業の意義や役割、現代の商品流通の仕組みについて説明していきますが、近年、商業を取り巻く環境も劇的に変化していることを鑑みて、具体的な事例を盛り込みながら講義を進めていきます。講義前半部分では、商業の生成、商業構造を知るとともに流通機能についても理解を深めながら小売業態の変遷を分析・検討します。そして、後半部分では商店街やショッピングセンターである商業集積、さらには無店舗販売における知識を深め、今日の商業が国際化している点やその展開について紹介していきます。
到達目標	①商学に関する基礎知識を習得し、専門用語について理解することができる。 ②商業が担う役割や商業存立の意義について説明することができる。 ③商品流通に関する興味や関心をもつことができる。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点		
小テスト		
レポート		
定期試験	80	定期試験期間中に実施します
その他	20	課題の提出状況で評価します

事前・事後学習	事前学習として、下記のテキスト、参考書をはじめとし商学や商業に関する専門書を事前に熟読すること。 事後学習は、毎回配布する資料の内容を再度確認し、専門用語やポイント等を各自で整理しておくこと。

事前受講を推奨する科目		

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『[改訂版]流通と商業の基礎理論』	岩永忠康ほか	五絃舎	2024年

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『新・流通と商業（第6版）』	鈴木安昭	有斐閣	2016年
『商学への招待』	石原武政・忽那憲治編	有斐閣	2013年

備考	（1）授業形態：対面授業 （2）授業資料の配信方法：Google Classroom（配布資料をアップロードします） （3）授業資料の配信スケジュール：毎週火曜日18時まで （4）質疑応答、意見交換の方法：講義終了後またはメールで実施

授業の計画		
1	講義ガイダンス	講義概要、成績評価・方法などを説明する。
2	商業の基礎概念（1）	商学を取り巻く学問領域および商学と商業学の体系について解説する。
3	商業の基礎概念（2）	商業の生成と商業機能および商業の概念について解説する。
4	流通機構	商品流通の態様や商業の役割および商品流通のタイプについて解説する。
5	日本の流通システム	日本の流通システムおよび取引慣行について解説する。
6	卸売業（1）	卸売業の位置づけやその機能や特性について解説する。
7	卸売業（2）	卸売業の経営およびリテールサポートについて解説する。
8	小売業（1）	百貨店の生成とその展開について検討しながら解説する。
9	小売業（2）	専門スーパーマーケットと総合スーパーマーケットに関して解説する。
10	小売業（3）	コンビニエンス・ストアに実態把握と可能性について解説する。
11	小売業（4）	その他の業態（ディスカウントストア、製造小売等）に関して解説する。
12	商店街とショッピングセンター	伝統的な商業集積（商店街）と計画的な商業集積（ショッピングセンター）について解説する。
13	無店舗販売（1）	無店舗販売の実態や商取引の電子化に関して解説する。
14	無店舗販売（2）	無店舗販売における事例研究の紹介をします。
15	商業の国際化	商業の国際展開と外資参入とその事例研究。

授業科目名	経営学入門	担当教員名	西田　郁子				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	本講義では企業とは何か、経営学とは何か、われわれの社会や生活にどのように関係しているのかを考えます。人間は一人では大きな仕事はできません。そのため組織といういうものが生まれます。その組織はどんな原理で運営されたときに効率的で、社会的に有益なものになりやすいのかを議論するのが経営学です。 「経営学」と聞いてみなさんは「経営者のための学問」、「お金儲けの学問」を連想するかもしれません。そのような側面もあるかもしれませんが、それだけではありません。経営学を学ぶことは世の中をより良きものとする術を会得することでもあります。マネジメント能力はどのような職業に就くにしても必要です。
到達目標	・経営学の入門的な知識についてその内容を理解する。 ・企業の諸問題について関心を持つ。 ・サークルなど身近な組織の運営の諸問題に関心を持つ。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	30	課題等の提出状況で評価します
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	70	
	その他		

事前・事後学習	事前学習として、下記のテキストの該当箇所を事前に熟読すること。 事後学習は、配布資料を再度確認し、専門用語やポイント等を各自で整理しておくこと。

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『現代の企業経営』	西田 安慶・林純子	三学出版	2021年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『ゼミナール経営学入門　第3版』	伊丹敬之・加護野忠男	日本経済新聞出版社	2018年
	『1からの経営学<第3版>』	加護野忠男・吉村典久	碩学舎	2021年

備考	

授業の計画		
1	ガイダンス	経営学の全体像
2	現代企業とその社会的役割	さまざまな企業形態と株式会社の基本的な仕組み
3	コーポレート・ガバナンス	今日の企業統治の課題
4	経営戦略（1）	経営理念と戦略
5	経営戦略（2）	競争戦略のマネジメント
6	経営戦略（3）	多角化戦略のマネジメント
7	経営組織（1）	基本的な組織構造の枠組みと特徴
8	経営組織　（2）	基本的な組織構造の枠組みと特徴　ブレークスルーを生み出すためのさまざまな仕組み
9	経営組織　（3）	やる気(動機づけ)の重要性　インセンティブ・システム　リーダーシップ
10	経営組織　（4）	情報や知識のマネジメント
11	マーケティング	マーケティングの基本概念
12	生産管理	企業はどのようにしてモノをつくるのか
13	国際経営	国境を超えて展開される企業活動のマネジメント
14	デジタル経営	進化したICT（通信情報技術）を活用して、良いことを上手に実現する方法
15	財務管理	企業はどのように資金を調達し運用するのか

授業科目名	経営情報学入門	担当教員名	松本　義之				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	現代社会において、情報システム・IT機器は必要不可欠なものになっている。また、企業の経営活動においても同様である。オフィスにはコンピュータ機器が並び、スマートフォンやタブレットを使って営業活動を行い、SNSやメッセージ交換サービスを利用して広報宣伝活動や市場調査・分析などが行われている。また、今後のDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進において、情報システム・IT機器の重要性は、更に高まると考えられる。 本講義は、経営・経営情報の入門科目として位置づけられている。まず、経営活動を支える情報技術について学ぶ。その後、様々な情報システムが現代社会において、どのように利用されているかを学ぶ。情報セキュリティ・SNSマーケティング・インターネット広告・人工知能利用など、具体例を挙げて考察していく。
到達目標	①企業において利用されている情報技術の基本について理解する ②情報システムを利用した様々なサービスについて理解する ③企業における情報システムの応用例について理解する

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	30%	授業終了時に課題を提示
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	70%	持ち込み不可
	その他		

事前・事後学習	Google Classroomで学習用コンテンツ・課題を配布

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『日経コンピュータ』		日経BP社	

備考	

授業の計画		
1	はじめに	講義の概要、成績の評価方法などを説明
2	経営を支える情報技術(1)	大型汎用機・パーソナルコンピュータ・スマートデバイス・マイクロコントローラなど
3	経営を支える情報技術(2)	コンピュータネットワーク・クラウド技術など
4	経営を支える情報技術(3)	関係型データベース・NoSQL・検索エンジンなど
5	情報システムの応用例(1)	スマートフォンやタブレット端末などが企業でどのように利用されているかを学ぶ。また、BYOD（私的デバイスの活用）について学ぶ
6	情報システムの応用例(2)	銀行などの金融機関において、情報システムがどのように利用されているか学ぶ
7	情報システムの応用例(3)	情報システムのセキュリティ技術について学ぶ。また、情報漏洩の事例について解説する
8	情報システムの応用例(4)	インターネット上にある大量のデータを分析する手法・応用例について解説する
9	情報システムの応用例(5)	家電製品やセンサー類に組み込まれているマイクロコントローラをインターネットに接続するIoTについて解説する
10	情報システムの応用例(6)	ソーシャルネットワークサービスの歴史や種類、ビジネス分野での応用について解説する
11	情報システムの応用例(7)	無料通話アプリ・メッセージ交換サービスなどについて解説する。また、これらのサービスを利用したマーケティングについても解説する
12	情報システムの応用例(8)	ソーシャルゲームの歴史や、これまでのコンピュータゲームとソーシャルゲームの収益方法の違いについて解説する
13	情報システムの応用例(9)	インターネットで行われている広告の種類や方法について解説する
14	情報システムの応用例(10)	人工知能技術や、人工知能がビジネスにおいてどのように利用されているかを解説する。
15	総括	講義全体のまとめを行う

授業科目名	国際経済学入門（国）	担当教員名	猿渡　剛				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	この授業は国際経済・グローバルビジネスの入門的内容を扱います。国際経済やグローバルビジネスに関心を持つ学生が理論と実際について基礎から学べるよう目指していきます。 　授業ではまず、国際経済・グローバルビジネスを巡る環境について解説します。グローバリゼーションの歴史的経緯、グローバリゼーションを巡る課題や議論について説明します。次に、国際経済・グローバルビジネスの枠組み、具体的には保護主義化が強まっている最近の傾向を踏まえ、保護政策と自由貿易の論点のほか、世界貿易機関（ＷＴＯ）の役割と課題についてみていきます。最後に、市場と経営資源を見据えた企業戦略について考察・分析するために有用なフレームワークを時間が許す限り紹介します。
到達目標	①国際経済・グローバルビジネスを巡る最近のトピックスを把握する。②国際経済・グローバルビジネスを後方から支える制度的枠組みを理解する。③さまざまな市場参入モデルの特徴や留意点を理解する。①～③を通じて、国際経済・グローバルビジネスの基礎について理解し、適切な企業戦略について自ら考え、議論することができるようになる。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	５０	授業中にレポートやミニッツペーパー等を課します。
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	５０	空欄補充問題と論述問題で構成される期末試験があります。
	その他		

事前・事後学習	事後学習として資料や動画に再度目を通し、授業内容を各自整理しておいてください。

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『グローバルビジネスの流儀』	池下譲治	晃洋書房	２０２３年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	ＰＰＴスライドまたは板書によって授業を進めていきます。

授業の計画		
1	イントロダクション	授業概要、授業の進め方、評価の方法と基準
2	グローバリゼーション（1）	グローバリゼーションとは何か、グローバリゼーションの現在・過去・未来
3	グローバリゼーション（2）	グローバル化を巡る議論
4	通商政策とＷＴＯ（1）	世界貿易の動向と分析、保護主義の台頭
5	通商政策とＷＴＯ（2）	関税、保護政策 ＶＳ 自由貿易の論点
6	通商政策とＷＴＯ（3）	世界貿易機関（ＷＴＯ）の役割と課題
7	海外直接投資の動向・理論・政策（1）	グローバリゼーションと海外直接投資
8	海外直接投資の動向・理論・政策（2）	海外直接投資の主要理論
9	海外直接投資の動向・理論・政策（3）	海外直接投資の効果とコスト
10	グローバル市場への参入戦略（1）	参入市場の決定、グローバル市場への参入
11	グローバル市場への参入戦略（2）	主な参入モデル、撤退戦略
12	グローバル・マーケティング（1）	４つの基本戦略と組織構造
13	グローバル・マーケティング（2）	パールミュッターのＥＰＲＧプロファイル、グローバル市場のセグメンテーション
14	グローバル・マーケティング（3）	マーケティングプログラムの決定（４Ｐ→４Ｃ→４Ａ）、カントリー・オブ・オリジン効果
15	まとめ	授業の振り返り、期末試験についての説明

授業科目名	簿記原理Ⅰ（国）	担当教員名	高橋　和幸				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	簿記は、「帳簿記録」の四文字が圧縮したものであるという説があるように、現金の収支、商品の仕入・売上、債権債務の発生・決済をはじめとする企業活動について記帳し、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることを目的としている。ビジネス社会における共通言語が会計数値であるといわれるが、このような数値を産み出すシステムが簿記である。したがって簿記の知識を修得することは、将来ビジネス社会で活躍するためには必須のことといえる。本講義では、企業のうち商企業を対象とした複式簿記の基本的な構造や一連の手続きについて講義する。
到達目標	①簿記に関心を持つ。 ②記帳の原理および主要な勘定科目の意味を理解する。 ③決算や財務諸表の作成までのプロセスを理解する。 ④簿記の果たす役割について理解する。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	30	講義中の問題演習や課題の提出が該当する。
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	70	
	その他		

事前・事後学習	事前学習(予習)としては、教科書の範囲を熟読しておくこと。事後学習(復習)としては、その回の配布資料等をもとに教科書の該当範囲の内容を整理したり、問題演習に取り組むこと。

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『複式簿記概説(第二版)』	鶴見正史編著	五絃舎	2023年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『簿記テキスト(最新版)』	山下正喜編著	創成社	2009年

備考	毎回、電卓等の計算機器を持参すること。ただし、プログラム機能や辞書機能(文字入力を含む)を有する電卓を、定期試験時に使用することは不可。また、毎回の積み重ねが重要であることに留意すること。 なお、本講義を履修後に「簿記原理Ⅱ」、「会計学原理Ⅰ」、「会計学原理Ⅱ」を履修することが推奨される。

授業の計画		
1	はじめに	講義概要などのガイダンス
2	簿記の基本	企業活動と簿記、簿記の意義及び歴史
3	簿記の基礎概念	簿記の要素(資産・負債・純資産(資本)・収益・費用)
4	簿記における取引	取引の意味と取引の8要素
5	勘定と仕訳(1)	勘定の意味(借方・貸方の理解)
6	勘定と仕訳(2)	勘定への記入、仕訳の意味と内容
7	帳簿の記入	仕訳帳と総勘定元帳、元帳転記
8	決算(1)	試算表の意義と作成（貸借平均の原理の理解）
9	決算(2)	精算表の意義と作成
10	決算(3)	元帳決算（仕訳帳と総勘定元帳の締切）
11	財務諸表の作成	貸借対照表と損益計算書の作成
12	諸取引の処理(1)	現金取引の処理と補助簿
13	諸取引の処理(2)	預金取引の処理と補助簿
14	諸取引の処理と記帳	簿記一巡の手続の概要と意義
15	全体のまとめ	商業簿記の基本的な仕組みや処理を総括する。

授業科目名	ミクロ経済学Ⅰ（国）	担当教員名	佐藤　佑一				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	本講義は、ミクロ経済学の基礎的な理論を実際に使いこなせるようになることを目指す。まず、需要・供給という基礎的概念を考える。次に利潤や費用を考える。これらの分野を理解することによって、自らの利潤を最大化させるためにはどうしたらよいか、あるいは費用を最小化させるためにはどうしたらよいかを考えるなど、実際の例に当てはめた経済学的思考ができるようになる。故に、ミクロ経済学Ⅰでは、需要・供給や、利潤・費用などに関する基本的な理論を習得し、使いこなせるようになることを目指す。
到達目標	・ミクロ経済学を読み解くうえで基本的な知識を習得する。具体的には次のとおりである。 ・ミクロ経済学において、現実世界がモデル化されている知識に関して習得：需要・供給の概念や、予算制約に関する考え方、および様々な財の存在とその組み合わせの動きを理解する。 ・ミクロ経済学の観点から、収入・利潤と費用とは何かについて考え、利潤と費用の変化がもたらす影響についての考え方を習得する。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	30	詳細は授業開始後に述べます。
小テスト		
レポート		
定期試験	70	詳細は授業開始後に述べます。
その他		

事前・事後学習	・毎回の授業の予習として、各回に該当する章を事前に読み込み、分からない用語や概念を確認し、メモしてくる。（事前学習） ・授業において理解した後には、授業で取り扱った問題を、口頭で説明でき、かつペーパーテストで解答できるようになるまで復習する。（事後学習）

事前受講を推奨する科目		

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『試験攻略入門塾　速習！ミクロ経済学 2nd edition』	石川秀樹	中央経済社	2019

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年

備考	・経済学を学ぶ上で大切なのは、継続的な学習です。継続的な学習に必要なのは、何が分からないかを事前に調べることと、学んだあとに復習を繰り返して頭に定着させることです。ゆえに、センスではなく、繰り返し考えて覚えることが大切です。 ・本講義は、開講後に内容や進度を一部変更することがあります。

授業の計画		
1	イントロダクション	本講義の概要と目的について説明する。「経済」とは何かについて考える。
2	経済学の思考パターン	ミクロ経済学の考え方、グラフの読み方について学ぶ。
3	限界効用と無差別曲線	経済学で大切な「効用」という考え方と、無差別曲線について考える。
4	ミクロ経済学で使う基本的な数学について	ミクロ経済学で使う数学について、本講義で使用する教科書の範囲で、端的かつ単純（できるだけ簡単）に説明する。
5	予算制約線・最適消費点	限られた予算（予算制約）の中で、一番望ましいお金の使い方（最適消費）は何かについて説明する。
6	上級財・中立財・下級財	モノの金額と、モノの消費の仕方について、性質が異なる財があることについて説明する。
7	需要曲線①	価格が変化したとき、買う人（消費者）はどのような消費行動をとるかを説明する。
8	需要曲線②	第7回に引き続いて、価格が変化したとき、買う人（消費者）はどのような消費行動をとるかについて説明する。
9	様々な無差別曲線・労働供給量の決定	第3回の講義とは異なる無差別曲線について説明する。もう一つのトピックとして労働というものについての需要と供給について説明する。
10	利潤・収入、費用について	完全競争市場（同じモノがたくさんある市場）では、どのようにして、収入、費用、利潤（もうけ）が決まるかどうかについて説明する。
11	供給曲線	完全競争市場における供給曲線の性質について説明する。
12	完全競争市場の長期均衡	完全競争市場について、長期的にはどのような影響があるのかについて説明する。
13	生産要素の需要	企業の生産要素の決定方法について学ぶ。
14	調整過程	需要と供給が一致する方法のパターンについて学ぶ。
15	復習とまとめ	ミクロ経済学Ⅰで習ったことを概観し、まとめとして、復習を行う。

授業科目名	マクロ経済学Ⅰ（国）	担当教員名	佐藤　佑一				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	本講義は初級レベルのマクロ経済学に慣れてもらうように設定するものです。マクロ経済学は、国家・企業・家計が経済の主役（経済主体と言います）となって動く経済学のことです。本講義を受けることによって、現在の経済がどのように動いているかを分かるようになることを目指します。マクロ経済学Ⅰでは、テキストの半分までを学習し、現実経済の実際の動き、および動きを決定する政策手段について習得することを目標とします。
到達目標	・基本的なマクロ経済学の知識を習得する。・国民所得や投資とは何かについて学ぶ・お金の流れ（貨幣の流れ）とお金の流れを決める政策（金融政策）の手段について学ぶ。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	30	授業内で指示する
小テスト		
レポート		
定期試験	70	授業内で指示する
その他		

事前・事後学習	・毎回の授業の予習として、各回に該当する章を事前に読み込み、分からない用語や概念を確認し、メモしてくる。（事前学習） ・授業において理解した後には、授業で取り扱った問題を、口頭で説明でき、かつペーパーテストで解答できるようになるまで復習する。（事後学習）

事前受講を推奨する科目		

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『試験攻略入門塾　速習！マクロ経済学 2nd edition』	石川秀樹	中央経済社	2019

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年

備考	・経済学を学ぶ上で大切なのは、継続的な学習です。継続的な学習に必要なのは、何が分からないかを事前に調べることと、学んだあとに復習を繰り返して頭に定着させることです。ゆえに、センスではなく、繰り返し考えて覚えることが大切です。 ・本講義は、開講後に内容や進度を一部変更することがあります。

授業の計画		
1	イントロダクション	本講義の概要と目的について説明する。「経済」とは何かについて考える。
2	経済学の思考パターン	マクロ経済学の考え方、グラフの読み方について学ぶ。
3	経済学の歴史と考え方	近代経済学の２つの流れである古典派とケインズ派の違いについて説明する。
4	GDPと物価	GDP（国内総生産）について説明する。
5	三面等価の原則	GDPの決定方法について主に3つの観点から考察する。
6	財の需要	財（モノ・サービス）の需要がどう決まるかを考える。
7	45度線分析	財の需要と供給の一致と、そこではGDPはどう決まるかについて説明する。
8	インフレギャップとデフレギャップ	需要と供給に差があるときに、モノの需要と価格はどうなるかについて説明する。
9	乗数について	投資や政府支出を行うと、支出の何倍国民所得が増えるかについて考える。
10	貨幣と債券	貨幣（お金）と債券の機能・法則について考える。
11	貨幣供給	日本銀行が行う貨幣政策について考える。
12	利子率の決定	貨幣の需要供給によって、利子率がどう決まるかを考える。
13	投資の限界効率	投資をどこまで行えば、財の需要がどうなるかについて考える。
14	金融政策の効果	どのような金融政策の手段があるのかについて考える。
15	諸派による金融観の違い。授業総括。	古典派とケインズ派の金融政策の違いについて学ぶ。および15回の授業の総括を行う。

授業科目名	経済原論Ⅰ（国・公）	担当教員名	関野　秀明				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	この講義のねらいは、今、私たちが暮らしている社会の基本システムである「資本主義」が私たちを取り巻くさまざまな人間関係にいかなる肯定的、否定的影響を与えてきたかについて理論的に考えることです。なぜ人間が作り出した「貨幣」が人間を支配するようになったのか、なぜ人類史上空前の豊かな生産力を実現した「資本主義」が戦争も貧困も解決できないのか、なぜ中高年のリストラ・失業、若者の就職難と働きすぎ・過労死といった問題が同時におこるのか、といった現実のシビアな問題に取り組んで欲しいのです。
到達目標	①貨幣のもつ魔力の科学的根拠を理解する ②剰余価値・利潤が働く人からの搾取で成り立つことを理解する ③成果主義賃金が「頑張るほど奪われる賃金制度」であることを理解する ④資本の蓄積と貧困の蓄積は表裏一体であることを理解する ⑤利潤のための経済が過剰な生産と制限された消費を生み停滞に至ることを理解する

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	100	
	その他		

事前・事後学習	毎回の授業は当日配布する「講義レジュメ」を用いる。そのうえで、月刊『経済』編集部編『変革の時代と資本論‐マルクスのすすめー』、とくに第7章、関野秀明「マルクスの剰余価値理論」を読むことは、予習、復習、両方に役立つ。

事前受講を推奨する科目		
	経済学入門	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『新版資本論』	カール・マルクス	新日本出版社	2020年
	『変革の時代と資本論』	月刊経済編集部編	新日本出版社	2017年
	『経済学辞典』		大月書店	

備考	対面授業、対面定期試験を予定している。

授業の計画		
1	資本論の経済学とは何か	歴史研究、法則性研究、発生論的・弁証法的方法、階級性
2	商品論1	商品と労働の二重性
3	商品論2	価値形態論
4	商品論3	物神性論
5	商品論4　貨幣論1	交換過程論　貨幣の価値尺度
6	貨幣論2	流通手段　蓄蔵貨幣　支払手段　世界貨幣
7	剰余価値論1	貨幣の資本への転化
8	剰余価値論2	生産過程　絶対的剰余価値論
9	剰余価値論3	相対的剰余価値・特別剰余価値論
10	賃金論1	労働の価値と労働力の価値
11	賃金論2	時間賃金制度
12	賃金論3	出来高賃金制度
13	資本蓄積論1	所有法則の転換
14	資本蓄積論2	相対的過剰人口
15	資本蓄積論3	資本と貧困の蓄積　資本主義の歴史的傾向

授業科目名	金融論Ⅰ	担当教員名	鶴沢　真				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	・わが国の金融システムは、高度経済成長期における銀行中心の間接金融システムから、90年代後半のバブル崩壊後の銀行危機、2008年のリーマンショックに端を発する世界的な金融危機を経て、直接金融を中心とするシステムへ変わりつつあり、金融機関に求められる機能も大きく変化している。高齢化や人口減少を背景とした低成長のなかで企業の資金需要は低調な一方、家計においては貯蓄から投資に向けた政策、キャッシュレス化が推進されている。グローバル化の流れに加え、中央銀行においてもゼロ金利政策が継続される等、金融機関にとっての外部環境も変化している ・金融の基本的機能、金融商品、金融市場に関して、出来る限り金融ビジネスにおける実務に役立つよう具体的に講義していく。それぞれのテーマに応じた実際のトピックスや歴史上の事件等を提示し、実際の対応を紹介する。受講する学生は自らの考え方を整理し、他人へわかりやすい説明ができるようになることが求められる
到達目標	・金融の基本的機能、金融市場や金融商品の仕組みを理解し、わかりやすく説明できる ・金融に関連した現実の課題や、最近の動向について自分なりの意見を持てる ・基本的な金融商品の仕組みを理解し、自ら購入することも検討できる

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	20	
	小テスト	40	
	レポート		
	定期試験	40	
	その他		

事前・事後学習	・教科書である「テキスト金融論　第2版」第1章から第15章にしたがって講義を進めます ・Google Classroomを利用し、講義資料をアップしますので、予習・復習を行って下さい

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『テキスト金融論 第2版』	堀江康熙・有岡律子・森祐司	新世社	2021

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『下関市立大学　学びのハンドブック』			

備考	・この授業は、金融機関での実務経験のある教員が行う授業です。

授業の計画		
1	金融の役割	・イントロダクション（金融論Ⅰで学ぶこと） ・金融の基本的機能
2	金融機関の機能	・金融仲介と資産変換機能 ・情報生産機能
3	通貨の役割	・通貨とその機能 ・信用創造 ・キャッシュレス決済
4	資金の決済	・銀行振込と決済 ・中央銀行の役割
5	金融商品の価格	・金利の役割 ・リスク、価格と取引行動
6	金融資産のリターンとリスク（上）	・不確実性の存在と選好 ・リスク回避型投資家の行動
7	金融資産のリターンとリスク（下）	・ポートフォリオの選択 ・最適ポートフォリオとCAPM
8	金融取引と金融システム 市場取引型市場	・金融市場の機能とタイプ ・金融取引の類型 ・金融市場の類型化
9	債券市場の特徴	・債券市場と価格 ・債券利回りと変動
10	株式市場の特徴	・株式市場と株式 ・株価の変動と投資の尺度
11	証券化商品市場	・証券化商品 ・投資信託
12	金融派生商品市場Ⅰ	・先物市場と先物 ・先物価格の決定
13	金融派生商品市場Ⅱ	・オプション市場、コールとプット ・プレミアムの決定
14	金融派生商品市場Ⅲ	・通貨スワップと金利スワップ ・クレジット・デリバティブ
15	外国為替市場	・国際金融取引 ・外国為替市場と相場

授業科目名	東アジア経済論	担当教員名	猿渡　剛				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	この授業では、なぜ東アジア地域・諸国の経済開発が相対的に成功してきたのか、その要因を探るとともに、東アジアのなかで日本が果たすべき役割について海外直接投資の統計・データなどに基づいて考えていきます。具体的には、海外直接投資が受入国・送出国の双方にさまざまな影響を与えることを確認し、種々のデメリットを踏まえた上で、直接投資の恩恵を最大化するためには何をすればよいのかを一緒に考えていきます。そして最後に、急速に発展する東アジア地域のなかで日本がどのような変化を遂げるべきなのかについて私案を提示したいと思います。
到達目標	①東アジアの重要性の高まりを理解する。②東アジア地域・諸国の経済発展の要因を理解する。③グローバリゼーションの進展に伴う東アジア経済の構図の変容を理解する。④日本経済の問題点と今後の方向性を理解する。①～④を通じて、東アジア経済に関する学術書の内容を理解したうえで、望ましい日本経済のあり方ならびに東アジア諸国との関係を自ら考え、議論することができるようになる。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	５０	授業中にレポートやミニッツペーパー等を課します。
	小テスト		
	レポート	５０	期末試験を実施するとしていた当初の予定から変更し、期末レポートを課します。（5月26日修正）
	定期試験		
	その他		

事前・事後学習	事後学習として配布資料に再度目を通し、授業内容を各自整理しておいてください。

事前受講を推奨する科目		
	国際経済学入門	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しません』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『グローバルビジネスの流儀』	池下譲治	晃洋書房	２０２３年

備考	ＰＰＴスライドまたは板書によって授業を進めていきます。 　参考書『グローバルビジネスの流儀』は定期試験の出題範囲とするかもしれませんので、2024年度秋学期の「国際経済学入門」を受講していた方はそのまま所持しておいてください。 　また、外部からゲストスピーカーをお招きして講演していただく可能性があります。

授業の計画		
1	イントロダクション、直接投資とは何か	授業概要、授業の進め方、評価の方法と基準、直接投資の定義
2	日本の経済政策	アベノミクスの展開とその功績
3	日本は「お金持ち国家」	対外純資産の定義、統計でみる対外純資産、日本の対外純資産残高の推移、世界の対外・対内直接投資に占める先進国と発展途上国の割合
4	海外直接投資の近年の傾向	Ｍ＆Ａシェアと経常収支・第一次所得収支の推移の解釈、企業の稼ぎ方の変化
5	経済停滞から脱出するために（１）	日本は豊かな国なのか、生活が苦しいと感じる理由
6	経済停滞から脱出するために（２）	「安い」日本、低い労働生産性
7	経済停滞から脱出するために（３）	変わりゆく賃金制度、加熱する人材獲得競争
8	経済停滞から脱出するために（４）	日本的雇用慣行の行く末、海外資本と日本のリゾート
9	経済停滞から脱出するために（５）	製造業、アニメ産業における海外直接投資の受け入れ
10	海外直接投資と租税回避（１）	ウェルス・マネジャーとは何か、タックスヘイブンと多国籍企業
11	海外直接投資と租税回避（２）	オフショア金融センターの台頭、ウェルス・マネジメントと海外直接投資、国外脱出・その理由と背景、日本企業によるオフショア金融センターの活用事例
12	東アジアでのＭ＆Ａ（１）	海外での事業展開、マイノリティ出資でリスク分散、マジョリティ取得でスピードアップ
13	東アジアでのＭ＆Ａ（２）	海外Ｍ＆Ａのメリットと課題、Ｍ＆Ａ－３つの波、Ｍ＆Ａのメリットに中小企業も気づく
14	東アジアでのＭ＆Ａ（３）	海外Ｍ＆Ａの現状、相手の会社ではなくオーナー個人を評価する、アドバイザーを活用し案件を選ぶ、日本企業特有の注意点
15	まとめ	授業の振り返り、期末試験についての説明

授業科目名	簿記原理Ⅱ（国）	担当教員名	高橋　和幸				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	講義ではまず、商企業の主な取引の仕訳や記帳について復習する。その後、個々の重要な勘定科目ごとに特有な処理の内容に取り組み、それぞれに関連する補助簿の記入や管理について学ぶ。そして最終的に決算整理事項の処理をふまえた決算について学び、さらには財務諸表の作成についての理解をめざす。
到達目標	①簿記に関心を持つ。 ②商企業における主要な勘定科目の意味を理解し、 記帳できるようになる。 ③決算の処理を通じて、利益計算の構造を理解する。 ④簿記の果たす役割について理解する。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	30	講義中の問題演習や課題の提出状況に応じて加算する。
小テスト		
レポート		
定期試験	70	
その他		

事前・事後学習	事前学習(予習)としては、教科書の範囲を熟読しておくこと。事後学習(復習)としては、その回の配布資料等をもとに教科書の該当範囲の内容を整理したり、問題演習に取り組むこと。

事前受講を推奨する科目	簿記原理Ⅰ	

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『複式簿記概説(第二版)』	鶴見正史編著	五絃舎	2023年

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『簿記テキスト(最新版)』	山下正喜編著	創成社	2009年

備考	簿記原理Ⅰの履修後に本講義を受講することが望ましい。また、電卓等の計算器具を毎回持参すること。そして、　毎回の積み重ねが重要であることに留意すること。 本科目履修後は、「会計学原理Ⅱ」、「簿記原理III」の履修が推奨される。

授業の計画		
1	はじめに	講義概要などのガイダンス
2	記帳の基礎	簿記一巡の手続の確認
3	諸取引の記帳(1)	商品勘定の処理
4	諸取引の記帳(2)	売掛金・買掛金・貸倒れの処理
5	諸取引の記帳(3)	債権・債務に関する記帳
6	諸取引の記帳(4)	手形の意義と処理
7	諸取引の記帳(5)	有価証券および固定資産の処理
8	諸取引の記帳(6)	資本金と税金
9	決算(1)	試算表と決算整理
10	決算(2)	費用・収益の前受・前払いと未収・未払い
11	決算(3)	8けた精算表の作成(1)
12	決算(4)	8けた精算表の作成(2)
13	決算(3)	損益計算書と貸借対照表の作成
14	伝票	証憑と伝票制
15	全体のまとめ	複式簿記システムについて総括する。

授業科目名	民法Ⅰ＜民法総論＞	担当教員名	平山　也寸志				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	我々が生活する中で、例えば、商品を買う、電車に乗る、家を借りるという場合、それぞれ、売買契約、運送契約、賃貸借契約という「民法」が規律する法律関係に置かれる。また、民法は、事業者間の取引法の基礎でもある。このように、民法は、生活する上でも仕事をする上でも関係しうる重要な法である。 民法典は、総則・物権・債権・親族・相続の5編からなる。前3編は「財産法」であり、後2編は「家族法」である。この授業では、財産法全体に配慮しつつ、物権編と債権編の共通事項を規律する「総則編」に焦点を当てて基礎的な内容を学ぶ。なお、2020年4月から「民法（債権関係）改正法」が施行されるなど民法の改正作業が進んでいる。また成年後見制度の利用推進計画が国により策定され、同制度の改正に向けた動きもある。これらの動きにも適宜、この授業で触れる予定である。 経済学を学ぶ皆さんだからこそ、取引法である民法財産法の基礎である民法総論を学び、民法Ⅱ（債権法、物権法）、び消費者法の履修へとつなげて欲しい。
到達目標	①民法Ⅱ（債権法、物権法が内容となる）、3年春学期配当の「消費者法」を学ぶ基礎を固めるため、民法財産法全体に目を配りつつ民法総則編中の、基本的な制度について理解する。 ②民法が関係する社会現象、制度に関心を持つ。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	0	授業中、あるいは、授業後、課題として、確認問題を解いて提出してもらうことがある。
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	100	
	その他		平常点の評価割合は暫定的なものです。あとで確定します。

事前・事後学習	・事前に、予め、配布レジュメ、指定教科書等を読んで授業に臨むことが望ましい。 ・事後には、再度、配布レジュメ及び教科書として指定する後藤巻則他編『プロセス講義民法Ⅰ』の「基本説明」、「趣旨説明」等の箇所を読むなどして復習することが望ましい。

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『プロセス民法講義民法Ⅰ総則』	後藤・滝沢・片山編	信山社	2020

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『判例プラクテイス民法Ⅰ第2版』	松本恒雄・潮見佳男他編	信山社	2022
	『改正民法［債権法］における判例法理の射程』	伊藤進監修	第1法規	2020

備考	①google drive及びgoogle classroom等も使用予定。google drive等から授業の資料を取得すること等。②民法Ⅰ受講後は、民法Ⅱ、消費者法等の受講を推奨する。

授業の計画		
1	ガイダンス 民法総説①	ガイダンス　民法の意義　法源：制定法（民法典、民法の沿革、改正）
2	民法総説②	法源続き：制定法（特別法）、慣習法、判例
3	民法総説③	民法の基本原理　権利能力平等の原則、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任の原則
4	民法総説④	民法の基本原則の変容
5	私権の社会性	公共の福祉（民法1条1項）、信義誠実の原則（1条2項）、権利濫用の禁止
6	権利の主体①	胎児の権利能力、失踪宣告など
7	権利の主体②	意思能力、行為能力、制限能力者（未成年者）
8	権利の主体③	成年後見制度（法定後見〔後見、保佐、補助〕、任意後見） 成年後見制度利用促進計画など
9	権利の客体	物など
10	法律行為と意思表示①	心裡留保（93条）、虚偽表示（94条）、錯誤（95条）、詐欺、強迫（96条）
11	法律行為と意思表示②	無効原因（公序良俗違反（90条）など）、取消原因、無効と取消の違い、法律行為の付款（条件・期限）
12	代理	任意代理、法定代理、有権代理、表見代理、無権代理
13	時効	消滅時効、取得時効
14	法人制度	法人制度（一般社団法人、一般財団法人、公益社団法人、公益財団法人）など
15	全体のまとめ	その他、近時の改正法など

授業科目名	国際経済学＜国際政治経済学Ⅰ＞	担当教員名	魏　芳				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	本講義では、カネの国境を越えた取引の背景にある理論と、それが経済に与える影響を理解するため、国際経済学の基本的な知識と考え方を習得することを目的とする。 講義の前半では、国際収支統計と為替レートに関わる国際金融分野のトピックを学習する。変動相場制の仕組みや、為替レートがどのように決まるかなど、国際金融の基礎知識を身につける。後半では、国際マクロ経済学分野のトピックを学習する。対外経済取引がある下での財政・金融政策の効果を分析し、為替相場制度がマクロ経済政策に及ぼす影響を理解する。
到達目標	本講義では、国際金融および国際マクロ経済学の視点から、国際経済に関わる諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。国際収支とGDPの関係、為替レートの決定要因、開放経済における財政・金融政策の効果について、基礎的な分析手法を身に着ける。各トピックに応じて現実の制度・政策を紹介するとともに、具体的なデータ・事例を用いて国際経済の実態を把握し、グローバル社会が直面する諸問題について理解を深める。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	30	毎回授業後の課題の提出
小テスト		
レポート		
定期試験	70	
その他		

事前・事後学習	講義ノートを事前にGOOGLE CLASSROOMにアップロードしておきます。 事前学習(予習)としては、前回の授業において指示された教科書部分を熟読すること。 事後学習(復習)としては、各回のレジュメ末尾の理解チェックの演習問題を解き、自ら授業内容に照らして正答を確認しておくこと。 疑問点があれば課題のフィードバックで書くこと。

事前受講を推奨する科目	
国際経済学入門	
マクロ経済学	

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『グラフィック　国際経済学』	阿部顕三・寶多康弘	新世社	2024

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『国際金融をつかむ（新版）』	橋本優子他著	有斐閣	2019
『コア・テキスト　国際経済学（第2版）』	大川昌幸著	新世社	2015
『入門・国際経済学』	石井安憲他著	有斐閣	1999

備考	教科書に沿って解説しますので、教科書を毎回持参してください。

授業の計画		
1	ガイダンス	講義の概要・成績評価について
2	国際収支とGDP（1）	国際収支統計
3	国際収支とGDP（2）	GDPと経常収支
4	外国為替市場と為替レート（1）	外国為替の基礎
5	外国為替市場と為替レート（2）	為替レートと経常収支
6	為替レートの決定（1）	金利と為替レート
7	為替レートの決定（2）	物価水準と為替レート
8	GDPの決定（1）	閉鎖経済下のGDPの決定
9	GDPの決定（2）	開放経済下のGDPの決定
10	GDPと利子率の決定（1）	財市場におけるGDPと利子率
11	GDPと利子率の決定（2）	貨幣市場におけるGDPと利子率
12	GDPと利子率の決定（3）	ISーLM分析
13	国際資本移動とマクロ経済政策（1）	小国開放経済の均衡
14	国際資本移動とマクロ経済政策（2）	変動相場制でのマクロ経済政策
15	国際資本移動とマクロ経済政策（3）	固定相場制でのマクロ経済政策

授業科目名	管理科学＜管理科学Ⅰ＞	担当教員名	古川　哲也				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	企業の経営や管理などの社会活動では、様々な意思決定が必要となる。過去の経験による感覚的な予測に基づくのではなく、科学的な分析によって意思決定を行うための複眼的な知識・理解や汎用的技能を獲得する。具体的には、企業経営における代表的な問題を解決するための理論やモデル作成について学習すると共に、表計算ソフトウェアを用いて実際に問題のモデルを構築し計算する演習を行う。
到達目標	個々の項目について、最適な意思決定とは何かを理解する。 問題を解決するためのモデルを構築できる。 構築してモデルに基づいて計算し、最適な解決策を得ることができる。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト		
	レポート	30	
	定期試験	70	
	その他		

事前・事後学習	事前学習として、それぞれの手法が扱う問題を理解しておく。 事後学習として、手法の考え方を復習し授業で用いた例題を完成する。

事前受講を推奨する科目		
	経営学入門	
	経営情報学入門	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	

授業の計画		
1	ガイダンス	この科目で何を学ぶか、科学の意味するもの
2	決定理論	不確定性のもとでの意思決定の原理
3	需要予測(1)	時系列データの分析手法
4	需要予測(2)	回帰分析による予測
5	在庫管理(1)	最適在庫管理と確定需要の在庫管理
6	在庫管理(2)	不確定需要で発注が独立している場合
7	在庫管理(3)	不確定需要で発注が独立していない場合
8	線形計画法(1)	目的関数と制約条件式による線形計画問題の形式化
9	線形計画法(2)	シンプレックス法による解法と計算
10	工程管理(1)	工程計画表とネットワーク表示、工程の計算
11	工程管理(2)	クリティカルパスの計算、AonAとAonN
12	待ち行列(1)	M/M/1の性質、解析的な分析
13	待ち行列(2)	観測データに基づくモデルの構築
14	待ち行列(3)	モンテカルロ法によるシミュレーション
15	まとめ	学習した内容を生かすために

授業科目名	情報システム入門＜情報システム論＞	担当教員名	福田　龍樹				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	情報システムは我々の生活に密接に結びついており、コンピュータは我々のあらゆる活動の中心的存在となっている。また、社会基盤としての情報システムはさらに発展を続けることで我々の生活をより豊かなものにする。本講義では、国家資格である「ITパスポート試験」のカリキュラムの中の、テクノロジ系に絞って講義する。社会人として必要なIT技術を習得する。
到達目標	ITパスポート試験のテクノロジ系カリキュラムの内容を理解することができる。 情報システムに関する基本的な概念と用語について理解することができる。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト	60	
	レポート		
	定期試験	40	
	その他		

事前・事後学習	講義期間を通して各単元に関する小テストをオンラインにて実施する。期間中は何度でも受けられるため、事後学習として繰り返し受けてほしい。 また、本授業ではITパスポート試験のテクノロジ系に絞って扱うが、それでもすべての項目を深く扱うことは時間的に難しいため、さらに深く学習したいと思った内容については、各自でさらに学習してほしい。もしもわからないことが生じた場合は積極的に質問してほしい。

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『令和6-7年度版 ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集（よくわかるマスター)』	株式会社富士通ラーニングメディア	FOM出版	2024年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	

授業の計画		
1	ガイダンス	本講義の内容全般およびITパスポート試験について説明する
2	離散数学	主に2進数について学ぶ
3	情報に関する理論	主にディジタル化について学ぶ
4	アルゴリズムとプログラミング	主にデータ構造やアルゴリズムについて学ぶ
5	コンピュータ構成要素	主にプロセッサやメモリについて学ぶ
6	システム構成要素	主に情報システムの構成について学ぶ
7	ハードウェアとソフトウェア	主にシステムの評価指標とハードウェアの種類、OSについて学ぶ
8	ITパスポートの問題を解く1	講義前半部分の内容についてITパスポートの問題を用いて、実践的な知識を身につける
9	情報デザインと情報メディア	主に情報デザインやマルチメディア技術を学ぶ
10	データベース1	主にデータベースのモデルについて学ぶ
11	データベース2	主にデータの正規化について学ぶ
12	ネットワーク1	主にネットワークの方式について学ぶ
13	ネットワーク2	主にプロトコルについて学ぶ
14	ITパスポートの問題を解く2	講義後半部分の内容についてITパスポートの問題を用いて、実践的な知識を身につける
15	セキュリティ・総括	主に情報セキュリティやインターネット上の脅威について学んだ後、講義全体の総括をおこなう